

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500607		
法人名	株式会社 はるすのお家 尾張旭		
事業所名	グループホームはるすのお家 尾張旭		
所在地	尾張旭市庄中町2丁目4番地8		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kiban=true&liyosyoCd=2374500607-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成27年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事を通して、ご利用者に季節を感じてもらいようにしている。1階は、玄関やリビングの窓が『外』につながっており、新聞を取りに出たり、鉢植えに水をやったり、洗濯物を取り込んだりとご利用者それぞれが思いついたときに外へ出ることが出来る。好きな時に外出と言うのは難しいが、それを一つ一つ止めることなくできる限り見守り付き添いながらご利用者が生活できるように支援している。地域の中で事業所として何が出来るか？と言うことを考えながら運営してきているが、日々のご利用者への支援を通して認知症の人への理解などをしてもらえたらと言うことで「スクールガード」や地域の店舗への買い出しなどを掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

尾張旭市西部に位置し、名古屋守山区・名東区と隣接する地域にある。そのため『地域密着型』以前は、名古屋市内からの方も受け入れていた。『その人が、その人らしく生きる』サポートを理念に掲げ、訪問時には、自ら階段や廊下を清掃し、調理はもちろん、食器は自分から台所へ運び、当然のように自分で食器を洗い、所定の場所へ片づける入居者が見られた。冬の外出に二の足を踏むホームが多みられる中、「今月の目標 寒くても外出しよう」ホワイトボードに大書し、「目的のない散歩はつまらない」と感じる管理者は、食事の買い出し、近所のどんと焼きでのぜんざいの振る舞い、など興味を引く目的を作り出しては入居者を外出に誘い出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の小学校の下校を見守るスクールガードの活動をしたり、地域のスーパーなどをよく利用し出向いている。事業所内やリビングに会社の理念を刑事にスタッフにもわかりやすくしている。ミーティングなどで理念を提唱する。	『その人がその人として、その人らしく生きるために支え続けることを使命とします』を理念として掲げ、日常生活を当たり前に暮らすため、入居者に自発的に動いてもらえるよう、働きかけを行っている。入居者の自立への意欲が高く、訪問時には足が不自由ながら懸命に食器を片づける姿が見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回したりしている。地域の盆踊りに参加したり、買い物などで地域の方とすれ違った時には挨拶をしている。歩いて行ける距離にお店も多く、お店の方も快く受け入れてくれている。地域で行う行事などに積極的に参加している。	町内会に加入し、学童のスクールガードにも協力している。自分が気になるゴミ拾いを積極的に行う入居者があり、職員も後片づけをサポートしている。運営推進会議に民生委員の参加を要請したが、多忙のため断られ結局参加してもらえなかった。ほぼ毎日入居者とともに、地域のスーパーへ食事の買い出しに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者や職員が地域で認知症キャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座を開催している。毎日ではないが、地域のゴミ拾いやゴミの分別などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の定期開催を通して、家族が顔なじみになったりしている。入居状況、活動報告などを行っている。	家族・地域包括職員・市職員・管理者・職員をメンバーとし、隔月に開催されている。年末に忘年会を兼ねて開催した時には、入居者も参加し、20名を超える参加があり、楽しい写真が掲示されていた。『離設事故』をきっかけに、地域での『認知症サポーター養成講座』開設の提案など事故防止・認知症啓蒙活動のための活発な議論が展開されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居に関する相談なども含め、行っている。	管理者・一部職員は『認知症サポーター養成講座』に講師として参画し活躍中である。管理者は市役所・郵便局などでの認知症への対応を想定した劇の脚本を同講座のために書き、演出・上演し、日常的に認知症啓蒙活動に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関を開錠し、自由に外へ出られるようにしている。それが＝何時でも外出できると誤解されがちであるが、外出ニーズの高いご利用者には都度の対応をしている。勉強会を通して何が身体拘束なのかを伝えている。	玄関も各ユニットも解放されており、出入りの際には玄関のセンサーでチャイムが鳴る。昔、一人で階段を下りていた入居者が転落し、事故につながったことから、二階にだけ柵がしてあるが、誰でも開錠して通行できている。夜勤時も、事務所ではなく全室を見渡せるフロアに机を置いて事故防止を兼ねて仕事をしている。	現状は、自分で柵を開け階下へ出かけたり、自主的に階段を掃除する入居者もいたり、設置の必要性もなくなっている。無用の誤解を招かめためにも、解放に向け、存続の必要があるのか、職員と共に検討されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催している。ミーティングなどで話し合いなどをして日々の仕事の中でフィードバックし、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加した職員からミーティングで職員に報告をしてもらい、学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必ず行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 面会の際に家族と話をしたり、意見箱を置いている。	家族向けのホーム便りは隔月に発行されている。家族はみな週に一度くらいは訪問があり、家族は要望のレベルによって、伝える相談相手を選んでくれる。管理者は「家族の要望は、表面上だけでなく、その裏にどんな思いがあるのかを汲み取ってね」と職員に語りかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通して、職員は意見を出している。 パート職員はフロアリーダーとの面談を行っている。 日々の業務や空き時間を通して管理者に意見を伝えることがある。	日常的な気づきは各ユニットリーダーに報告され、その都度解決している。プラン見直しにつながるような事例は、計画作成担当者である管理者に報告され見直しにつなげている。年に一回サービス自己評価を実施しており、その都度リーダー・管理者が助言している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の希望に沿って勤務を調整している。 現在は代表者が不在な状況で勤務の希望などは管理者に伝えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修があり、参加することが出来る。 ミーティング時に勉強会を行っている。 職員一人一人に合わせどのようにサポートしていいかなど管理者より指示相談を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で、交流の機会がある。 近隣のGHと交流があり職員が研修に来ることがあったりご利用者を連れてお邪魔することもできる。 市内の連絡会に参加する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したころはこまめに声をかけ、本人が不安に思うことが軽減できるようにしている。 常に本人の趣向や話を聞きながらサービス提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望なども聞きながら、スタッフで話し合いサービスに努めている。家族の何気ない一言なども聞き漏らさないようにしている。 入居当初は面会のタイミングなど悩まれるが、いつでも来て頂けるように子をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族の希望を専用のシートに記入してもらうようにしているが、記入してみえない家族も少なくない。 本人の好きなことをスタッフと共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でご利用者が活躍できる機会をつくりながら、してもらったことには感謝の声をかけている。職員が声をかけ、ご利用者にしてもらうのではなく、ご利用者が進んで行き、そのことによるやりがいや施設内での居場所づくりに努めたいがなかなか出来ていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が出来ないことなどは家族に協力を依頼しお願いしている。 ご家族が好きな時に面会に来たり、外出などに連れて行って下さる光景が日常的。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩などをしながら、場所場所での思い出の話を伺っている。 友人の面会が多いご利用者もいる。 友人に会いに出かけたりなど支援している。	入居者の家族は週に1回ぐらいは訪問する。入居前からの友人も月に2度ぐらい訪れてくれる。相手が認知症と分かっているなくても、そのまま受け入れて、風のように去って、何事もなかったかのように、また訪問してくれる。なじみとなった近所のスーパーへはほぼ毎日入居者と訪れ、食材を購入している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で仲のいい方悪い方のそれぞれの関係を見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にもご家族が顔を出してくださったり、何かあると相談の連絡がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がしたい事を出来る限り希望通りに行うようにしている。 言葉にならない希望や察する支援と言うのはなかなかできていない。	職員が何か仕事を頼むのではなく、自分から掃除や調理をしたくなるよう仕向けている。外出したい要望には職員が個別に入居者に同行して、希望を叶えている。入居者が、『いいね』と言っている、 「目が笑っていない」、「職員を気遣っての社交辞令だ」等、その裏にある心を読み取る力を育てたいと、管理者は職員の一層のスキルアップを望んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでしてきた仕事や生活歴を本人から聞いたり記録を確認して把握している。 ご家族や友人から聞いた話なども記録に残すように努め周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に家族からシートを記入してもらい、把握に努めている。 カルテに細かく記入し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なミーティングでそれぞれのご利用者のプランを見直し、必要な支援を検討している。 ミーティングで意見が出ないことも多く、本人の意向を日々の関わりから汲み取ることが出来ていない。	パートを含む職員・リーダー・管理者を交えてカンファレンスを開催している。中々新規職員が定着せず、個々のスキルの差も目立ち、「ミーティングで意見が出ないことも多く、本人意向をくみ取ることができていない」と管理者は語る。モニタリングの前段階の『ニーズをくみ取る力』強化に尽力している。	個々のスキルをどうアップさせるか、管理者はその資質向上に日々尽力している。個々の職員が入居者の現状・問題点・原因把握・解決策を立案できるまでにスキルを高められるよう、その長い道のりを、弛むことなく取り組まれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	自分が関わったこと、聞いた言葉を介護記録に残すようにしている。 自分の休みの日の記録も確認するようにしている。 「昼食を召し上がる」というような記録が多く、その時々表情や様子が記録で書かれていないこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や状態に応じた支援をしている。 一人ひとりのニーズをくみ取り、出来る支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(盆踊り、運動会)に参加している。スクールガードに参加し、ご利用者自ら地域資源として活躍の機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	決まった日に往診を受けている。入居時に家族と話し合い、本人や家族の状況に応じた医療機関を選択できるように話をしている。	入居時にかかりつけ医の継続か変更かの聞き取りをしている。1カ月に1回登録している入居者のための往診があり、随時の往診も可能である。受診には家族が同行するが、その際ホーム発行の受診表を持参していただいていたが、最近はまだ活用されていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師が事業所にはいないが、医師への相談を看護師を通して行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族、病院に退院についての話をすると同時にソーシャルワーカーなどにも声をかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をどうするかチームでしっかり話し合っているが、どれが本当に正しいかはわからない。本人の状態が変化した時点で家族や主治医に話をするなど、早期の対応に努めている。	入居時に看取りについて、家族に口頭で話をしている。看取りのための指針は無く、入居者が重度化した時には口頭で様子を家族に伝えている。「お家で看取りを希望されるご家族へ」の説明書はあり説明書をもとに本人の意向、家族、主治医と管理者で話し合いをかさねて退去、入院、お家で看取りかを決めている。管理者は看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、避難訓練を行っている。ミーティングの際に勉強会を行ったり研修に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、消防署の立会いも依頼している。	年2回訓練は実施している。職員2名で夜間を想定した避難訓練をしている。水消火器を用いて消火の模擬訓練を入居者と職員で行っている。市からお願いをもらい、年に1回は消防署の職員の立ち合いをお願いしている。消防署の職員から助言をもらい反省会に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには注意し、悪いスタッフにはその都度声掛けをしている。 丁寧な言葉遣いを心掛けている。	マニュアルを使い研修会を実施しているが、プライバシーのみの研修会では無い為スタッフに気付いてもらいにくい部分もあると思われる。特定の利用者に対応できないスタッフは職員移動で対応する。雰囲気が変われば気付くことが出来るのではと、管理者は期待している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	困っていることがあれば聞いている。 多くの中からの選択ではなく、本人が決めやすいように声をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしてもらえよう極力努めているが、職員の都合になってしまう時もある。 ひとりひとりの希望に添うようにしている。 何か行いたい事があれば希望を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時などは本人に服を選んでもらうようにしている。 男性には毎朝髭剃りをしている。 食事のあとに口の周りや衣類が汚れていたり、目やにが一日中ついているなど配慮が出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、下ごしらえ、片付けなどご利用者と一緒に行っている。食事を作ってくれるご利用者には感謝を伝えている。「楽しみながら」と言う部分の働きかけが出来ていない。	メニューは作らず、当日に利用者の希望を取り入れて、スタッフと手伝いのできる入居者とともに調理している。買い出しはすぐ近くのスーパーにスタッフと入居者が車は使わず、雨の日でも傘をさして出かけている。合同でバーベキューを楽しんだり、朴葉寿司を作ったり、毎年梅干しを作ったりしている。食事中は音楽をながしテレビは付けていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分トータルを夜間計算し、前日どれぐらいの水分摂取量なのかをスタッフ全員がわかるようにしている。 食事量、おやつ摂取量など状況を記録している。 排泄状況や体重などを確認しながら食事量を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を考え、声掛けやトイレ誘導している。使用しているオムツが適切に使用量を見ながら考慮している。 汚れたらオムツを交換するのだが、頻繁な失禁などある方に対しおむつの使用量で悩むこともある。	日中は自立の方が多く排泄チェック表で誘導したり、見守りで対応している方もいる。夜間だけおむつを使用する方もいる。トイレは大きな字でドアに、「お手洗い」と書いた紙が貼られていて、目の高さにも合うように工夫されている。トイレは奥まった場所に設置されていて、使用する入居者に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談して、下剤を適宜内服している方がいる。 水分摂取の働きかけをしている。 食事面での配慮はなかなかできていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望の時間に極力あわせているが、職員の都合で変えてしまうこともある。 入浴したい方はスタッフに行ってもらっている。 季節のお風呂(ゆず湯や菖蒲湯)などしている。	風呂は365日入浴可能である。毎日入浴する入居者は一人だけだが、週2回～3回は入浴してもらうように工夫している。スタッフの介助を嫌う入居者の見守りは時々外から声かけて無事かを確認している。入浴剤は使用していないが、節句のしょうぶ湯、冬至の柚子湯など季節を感じてもらえるように努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に休まれる場合も無理に起こさず、数分に一度訪室している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬との食べ合わせなど考慮している。 すべての薬を把握はしていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りなどしてもらっている。 個々の生活歴を活かした支援を介護計画に取り入れ実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望通りには支援が出来ないこともある。家族の協力を得ながら、希望の外出先に出かけている方もいる。 その人それぞれの状況に応じて、喫茶店や外食、買い物などに出かけられるように支援しているが、不足している。	管理者は目的の無い散歩は、楽しくないという思いから近くのスーパーへの買い出しに入居者に行ってもらっている。近いこともあって車椅子の入居者にも出かけてもらい買い物を楽しんでもらうようにしている。イチゴ狩りや、近くの公園に秋祭りの棒の手を見学に行くなど外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数だが自分の財布にお金を所持し、自分の好きな物を買ってもらう事もある。 自分で買いたいものが買えない時にはスタッフが買いに行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等のやり取りがある方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや浴室などは季節により温度や電気の明るさを変えているが、廊下には設備がない。 毎日掃除を行い、花や季節感のある飾りなどを取り入れている。	玄関にはセンサーを取り付けているが施錠はしていない。廊下は広く車椅子が擦れ違っても余裕がある広さである。便器や洗面台は通常の白色ではなく薄いピンク色にして優しい雰囲気になるように配慮している。食堂と居間が一体化していて広く、三畳分の畳ベンチが設置してあるが、入居者は新聞を読んだり、洗濯物をたたむ為に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにいても一人で静かに本を読んだりくつろげ、自由に過ごしてもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や道具を置いたり写真を飾ったりしている。 本人の部屋だとわかるように写真などを飾っている。	室内の家具や道具は使い慣れたものを持ち込み入居者が安心できる部屋づくりを支援している。仏壇を持ち込む入居者もいるが小ぶりのものと限定されている。壁にはスタッフが折に触れて撮影した、沢山の写真が貼られていて、あとでアルバムにできるように工夫されている。居室の入口に掛けられている、暖簾は近々取り換える予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来る事は声をかけたり一緒に行ったりしている。 トイレの表示を貼っている。		